世界遺産への登録に関して

京都は、千年以上にわたり日本の文化、政治の中心でした。複数の中国王朝時代に都として栄えた、長安（現在の西安）の都を模して794年に築られました。京都の建築や庭園から、歴史を通じた日本の建築の発展を窺い知ることができ、銀閣寺は歴史の中で重要な役割を果たしています。

銀閣寺は東山文化の発祥の地、そして禅とわびさびの美学を体現する素晴らしい庭園と革新的な建築で知られています。銀閣寺は1994年にユネスコの世界遺産に登録された、古都京都（京都市、宇治市、大津市）の文化財17の遺産群の一つです。これらの文化財を構成する建物や庭園は10世紀から17世紀にかけて建設されたもので、その殆ど全てが宗教施設です。

文化的・歴史的な重要性に加え、銀閣寺の建物が細心の注意を払って保存されていること、そして修復されていることが、世界遺産認定を得る際の重要な要素でした。当時の建物のほとんどが、長年の間の火災、特に戦国時代(1467~1568年)に焼失・損傷してしまいましたが、東求堂と観音殿は当時のものが現存しています。伝統的な材料と技法を用いた再建や修復作業は、1615年に初めて行われ、そしてもう少し最近になってからも行われました。